

平成25年度 終了評価書

研究機関 : 日本放送協会、(財)NHK エンジニアリングシステム、NTT アイテ
ィ(株)、東北大学

研究開発課題 : 災害情報を迅速に伝達するための放送・通信連携基盤技術の研究
開発

研究開発期間 : 平成23年度～平成24年度

代表研究責任者 : 加藤 久和

■ 総合評価(SABCDの5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 23点

(総論)

開発された放送通信連携システムは、災害時のみならず平時においても適用で
きるシステムであり、全体としては意義のある開発である。

(コメント)

- NHK が積極的に開発しているハイブリッドキャストの一部なので、本開発のみの評価がやりにくい面もあるが、全体としては意義のある開発である。
- 災害時に対する適用に限定せず、平時におけるシステム(Hybridcast)の運用を目指しており、常時の運用が災害時における迅速な運用につながる点から、本研究開発の実施は、有益であったと判断される。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

大規模災害対策としての放送通信連携技術の開発は適切と判断される。

(コメント)

- 大規模災害対策として目標・政策的位置付け、研究開発の目的は適切であると考えられる。(放送と通信の不足分を相互補完、実用化を見越したシステム構築)
- 災害時の通信放送連携技術は重要である。
- 災害情報に関する研究開発である、常時情報も対象とした放送通信連携システムとして実用化・運用することが重要である。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

各分野の事業者が相互に連携し、かつ短期間で放送通信連携システムを開発しており、評価できる。

(コメント)

- 各分野の事業者が相互に連携して研究開発が行われており、スケジュールにしたがって行われている。(通信・放送事業者の協力)
- 1年間の計画であるが、適切にマネジメントされている。
- 極めて多数の機能を、1年間という短い研究開発期間中に統合し、システムを開発したことは評価できる。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

短期間で一部目標以上の成果があり、個々の項目において有効な技術を見出し、実現まで至ったことは高く評価出来る。

(コメント)

- 概ね目標は達成されていると考えられる。(要素技術の検討は個別に行われている、現場への導入をみこした検討)
- ハイブリッドキャスト開発の一貫であるが短期間で一部目標以上の成果がある。
- 当初の多数の目標を達成すべく、個々の項目に対して、有効な技術を見出し、実現まで至ったことは高く評価できる。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

学会発表、特許出願、国際標準化などの活動は当初の目標を上まわっており、評価できる。

(コメント)

- IPTV フォーラムで技術仕様策定済み。
- 標準化への貢献。Hybridcast の仕様とりまとめ。
- 実験でユーザビリティの確認を行うと共に学会等の発表も積極的である。
- 学会発表、特許出願、国際標準化などの活動は、当初の目標を上回っており、評価できる。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

今年中の放送通信連携システムの実用化に向けた具体的な検討が進められている。

(コメント)

- 今年中に試行予定。
- 実用化に向けた具体的な検討が進んでいる。
- ハイブリッドキャストの一貫として本研究を活かしていく計画である。ただ今回の成果そのものの社会展開がやや不明確であった。
- 実用化に向けての試行を今年中に予定している。